

# 「しまのゆんたくin久米島」を開催

沖縄総合事務局は、久米島町との共催事業として、11月7日（木）と8日（金）に久米島町イーフ情報プラザにて、「しまのゆんたくin久米島」を開催しました。

このイベントは、新たな離島振興策の一環として、地域のキーパーソンと産学官が一体となって、「ゆんたく（ざつくばらんな意見交換）」し、知見の共有と新たな島興しのヒントを探るものであり、今年7月の宮古島に次いで2回目の開催となります。

今回は、全体のテーマを「耕海興国～海洋資源立国のフロンントランナー・久米島を目指して」と題し、文字どおり「海を耕しての国興し」つまり海洋資源を用いての久米島の振興を主題に、講演会及びシンポジウムを開催しました。

我が国は、国土面積は世界第62位ですが、領海・EEZ（排他的経済水域）面積は世界第6位と、世界有数の海洋大国です。我が国が、引き続き経済大国として世界経済をけん引していくには、この海洋の活用が不可欠であると言つてよいでしょう。

こうした背景の下、政府の総合海洋政策本部では、海洋に関する施策を行

集中的かつ総合的に推進しています。

久米島においては、世界唯一の海洋温度差発電実証プラントが今年4月から稼働しているほか、海洋深層水を利活用した様々な商品（クルマエビなどの水産物や化粧品等）が製造販売され、一大産業に育っています。

本会合は、この久米島の持つ特性をより一層引き伸ばし、さらにもう一步踏み込んだ海洋資源の利活用を検討課題として、初日（7日）にはまず、久米島町から、久米島についての概要報告と、佐賀大学海洋工エネルギー研究センターの池上康之教授から、海洋深層水に関する基調講演が行われました。そして、産業・エネルギー・サービスの3分科会に分かれて、参加者による検討会が行われました。次いで、内閣官房総合海洋政策本部事務局の馬場崎靖参考事官による、日本の海洋利用の現状等についての講演が行われ



海洋政策について講演する馬場崎参事官

ました。

二日目（8日）には、前日の分科会で検討した内容を基に、産学官の代表者と島内で活躍されているキーパーソンによるシンポジウムを開催しました。海洋深層水の取水状況や複合利用について、さらに、ウェルネス産業や観光産業への発展性等、様々な視点からの発言がなされ、活発な議論となりました。会合の終わりには、大城肇琉球大学学長から久米島町に対し、今後の継続的なバッカアップを実施したいとの発言があり、最後に平良朝幸久米島町長が「海洋立島宣言」を提言しました（下記参照）。



海洋立島を宣言する平良・久米島町長

## 【海洋立島宣言】

地球上のすべての生命は「海」から始まったといわれています。  
我々は、いのちの原点である、母なる“海”をいま一度みつめなおすとともに、全ての英知を結集して、地球環境にやさしく、いのちが輝くような、そして、海とともに生きてきた「海洋国家・日本」にふさわしい未来を、大洋を臨む、ここ沖縄・久米島から創っていくことを宣言します。



ゆんたく本会で議論するキーパーソンら